

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-583-1
自己評価作成日	平成24年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

常に橙園の介護理念に添った介護に取り組んでいる。「一人に一つできること」を全員のケアプランに入れ、利用者さんが張りや自信を持って毎日笑顔で暮らしていただけるよう支援している。勉強会などで接遇を常に取り上げている。家族さんの思いにしっかり応えられる介護を努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●9月に行われた地域密着型サービス協会主催の四国交流フォーラムにおいて、「最後までたべようやあ〜口腔リハビリをして元気になった〜」というテーマで職員が事例発表され、大賞を受賞された。
 ●管理者の「新鮮な旬の魚を食べていただきたい。」という思いから、週2回程度、昼食に刺身をお出ししている。現在、刺身が苦手な方はおられず、みな喜ばれるようだ。時々夕食に、「フリーメニュー」の日を設け、食材を見ながら利用者と一緒に献立を考えて食事作りされている。
 ●利用者は、職員と一緒に近くの神社、地域の公民館や学校等での行事に年間を通して参加されている。又、交流のある他事業所の行事に参加して、利用者の方達と一緒に楽しい時間を過ごされることもある。又、松山方面の事業所の夏祭りにも参加して交流をされている。桜やツツジ、コスモス等、季節の花を見に出かけることもある。目の不自由な利用者の方も一緒に外出して、風や匂い等で季節を感じてもらえるよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム橙園

(ユニット名) 水仙

記入者(管理者)
氏名 山下直子

評価完了日 平成24年 12月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 橙園の理念「心身の障害があってもあなたらしく私らしく豊かに、人としての尊厳を守る介護」を全職員が意味を理解して言えるようになった(業務カンファ、勉強会で取り上げている)。今年リーダー研修を受講した職員がおり、理念を勉強し、それを職場実習で取り上げ、日々の介護につながるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 開設当初作成された理念、「心身の障害があってもあなたらしく私らしく心豊かに人としての尊厳を守る」を、玄関や各ユニットの居間等に掲げておられる。管理者は、「利用者の、できないところをカバーするのが職員の仕事」と、日々の中で話しておられ、事業所全体で利用者が、「あなたらしく、私らしく生きる」ことに向けて一丸となって取り組まれている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 橙園の夏祭りには、地域の方々、婦人会、日赤奉仕団、子供達、他施設の方々(利用者さんも)が来られ、準備や出店のボランティア、踊りの輪にり、盛り上げて下さっている。地方祭には五つ鹿、御神輿の訪問や、園児たちのお祭りごっこの訪問があり、文化祭には作品を作成して出品したり、地域の地域の防災訓練や大掃除にも参加している。</p> <p>(外部評価) 8月に開催する事業所の夏祭りは、恒例の行事となっており、多くの地域の方が参加して楽しまれている。法人の小規模多機能事業所が開設したことから、昨年より合同で行われている。焼きそばやかき氷等のバザーは、ボランティアが担当して下さり、地域の方やご家族に、楽しんでいただきたいと考えられる。年1度、小学生の訪問があり、利用者は小学生と話したり、ゲーム等をしてふれ合っておられる。中学生の職場体験では、利用者が中学生と一緒に昼食を楽しまれた。定期的にカラオケや三味線、押し花等、ボランティアの訪問があり、利用者は併設のデイサービスや近くの小規模多機能事業所に出向いて楽しんでおられる。又、近くの神社の季節毎にあるお祭りや公民館での行事、地域の学校の運動会等、地域に出かけていく機会も多い。地域の婦人会の方からは、「橙園ができてから、認知症に対する考えが明るくなった」等の言葉もいただくようだ。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 4月の運営推進会議には構成員以外にも、地域の方々、ボランティアの方々等、大勢の方に参加していただいて、活動報告や認知症介護についてお話ししたり、様々な質問を受けたりしている。また、3月に橙園で行った研修にも、地域の皆様に呼びかけ、参加していただいた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 「橙園だより」を運営推進会議で配布し、活動報告、利用者さんの日々の様子を伝えている。また、職員の研修報告も行っている。参加者の皆さんからは、毎回活発なご意見が多数あり、ここから発信された課題を取り上げて全国大会(鳥取県)で発表した。	
			(外部評価) H24年4月、事業所前の道を挟んだ場所に、法人の小規模多機能事業所を開設され、合同で会議を開催されている。開設以来、年に1度は、運営推進会議を公開しておられ、地域の方達に「施設の内容を広く知ってもらおう」とことに取り組みされている。昨年度末に、公民館にて開催した公開会議には、日頃、会議に参加して下さる方以外に、ボランティア、婦人会、地域の方々等、70人ほどの参加があった。会議では、代表者が運営状況の説明をされ、職員がパワーポイントを使って行事の際等の利用者の様子等を説明された。又、管理者からは、外部評価についての説明や現在力を入れて取り組んでいること等を説明された。通常の会議は、市の担当者、老人会会長、婦人会会長、区長、日赤奉仕団、民生委員等、多数の方に参加していただいている。会議では、職員の研修報告等もされており、地域の方から、「近いうちにお世話にならないといけないだろう。」「職員がよく勉強していて頼もしい。」等と感想をいただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 八幡浜市の「地域密着型サービス連絡会議」に出席し、他の事業所の職員さんとの意見交換の場となっている。	
			(外部評価) 月に1度、2名のさわやか相談員の訪問がある。成年後見制度を利用されている方は、後見人の方が月に一度訪問して下さり、運営推進会議にも参加して下さっている。9月に行われた地域密着型サービス協会主催の四国交流フォーラムにおいて、「最後までたべようやあ ～口腔リハビリをして元気になった～」というテーマで職員が事例発表され、大賞を受賞された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 業務マニュアルの中に「身体拘束マニュアル」があり、各ユニットに常備している。スタッフは必ず目を通すことになっている。基本的に玄関の施錠はしていない。利用者を常に視野にいれておく。一緒に散歩したり、野菜の収穫をしたり、気持ちを変える適切な声掛けを勉強している。	
			(外部評価) 日中は、施錠されていない。ユニットの行き来も自由にされており、調査訪問時には、別のユニットで過ごす利用者の様子がみられた。外に出ようとする利用者の方には、職員が付き添い、一緒に散歩したり、併設するデイサービスや道を渡って、系列小規模多機能事業所で一服する等して過ごせるよう支援されている。職員は、利用者の所在を把握しておくことや、玄関に面する事務所に、「誰かが居る」ように気を付けておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内での研修に参加し、職員全員で周知徹底している。言葉の暴力につながらないように言葉遣いにも注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 3月に行った職員研修では、権利擁護に関わられている市の職員に話をさせていただき、勉強した。その時は利用者の中に該当する方がおられた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時、利用者さん、ご家族に時間をかけて説明している。また、不明な点など質問していただき、納得し、理解してもらっている。管理者、ケアマネ、看護師、担当者より説明させてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時など、また電話などでも、要望や意見を伺っている。毎月、ご家族に送るお便りにて、また、施設サービス計画書(1)作成時、「利用者及び家族の介護に対する意向」をしっかりと聞きし、ケアプランにつなげている。	
			(外部評価) ご家族へのお便りには、毎月、利用者の写真を同封し、又、2ヶ月に1度は、「橙園だより」を同封して送付されている。前回の外部評価を受け、今まで以上にご家族とのコミュニケーションを図れるような取り組みを工夫されている。たとえば、計画作成担当者が毎月、「健康状態、作業・活動、交流、連絡事項」の項目ごとにコメントを書き、又、カレンダーに行事予定を入れて利用者個々のお便りをつくり、同封することを始められた。ご家族からは、「写真だけでもよかったけど、さらに様子がよくわかって嬉しい。」と、感想をいただいた。又、ご家族によっては、他家族にも送りたいと複数枚希望する方もいる。又、行事予定が書かれてあることで、ご家族が行事に参加して下さることが増えたことや、誕生会の日に合わせて、誕生月のご家族からお祝いが届くこともあるようだ。遠方のご家族とは、メールでやりとりされる方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回運営委員会を開き、運営に関すること、職員の勤務状況等や意見を出し合っている。また、月初めの業務カンファレンス(職員全員)でも行事の周知徹底の他、職員の意見や提案を聞くことがある。 (外部評価) 年2回、職員は、「自己評価」と「相互評価」(ユニット職員の評価)を実施し、同じ時期に、「職場に対するアンケート」を取り、職員が意見を出す仕組みを作っておられ、管理者が一つひとつの意見に目を通してコメントを書き、集計したものは、職員に回覧するようになっている。職員は、他職員の意見を見て学ぶ機会にもなっているようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己・相互評価をしている。研修実績、研修報告書の提出状況、アンケートその他提出物などを見て、一生懸命頑張っている職員はしっかり見ている。希望休あり。その人なりの働き方をしてもらっている。(子供が小さい、夜勤ができない等)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員それぞれ自分に適した研修、希望する研修に参加し、知識を高める努力をしている。勤務しながらヘルパー、介護福祉士、ケアマネなどの資格取得のために頑張っている。また、そのための勉強会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業所の運営推進会議に出席している。橙園にも招いている。また、八幡浜市地域密着型サービス連絡会議に出席している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談をしっかり行っている。フェースシート(入居時間診)①②③をしっかり取ることでご本人をよく知る。傾聴の姿勢でご本人の思いや希望をお聞きしたり、ご自分の気持ちをうまく表せない方はしっかり観察し、向き合うことで、気持ちや思いをくみ取るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談をしっかりと行っている。フェースシートでご本人やご家族の思いや困っていることを知る。サービス計画書(1)で介護に対する思いをしっかりとお聞きし、援助の方針や暫定プランをご説明し、安心していただく。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面談、フェースシートでご本人やご家族の思いやADL, 困っていること、要望などを知った上で、さらにご希望などをお聞きしたり、ご本人もしっかり観察する。併設のデイサービス、居宅、小規模多機能型居宅介護橙園の力も借りて、様々な対応を考える。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人の思いに寄り添い、ご本人の望まれている暮らしができていないか、ケアカンファレンスなどで話し合い、全員で同じ対応ができるようにする。声掛け、接し方など、その人その人に合わせる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には気持ちの良い挨拶をし、利用者さんの体調やエピソードなどをお話する。毎月一回スナップ写真入りのお便りを送っている。遠くてなかなか面会に来られないご家族には、時々お電話して、ご様子をお伝えしたり、ご本人ともお話をさせていただいたり、援助している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの理髪店へ行かれるため、2名の職員が援助する。銀行にも行かれる時は援助する。かかりつけ医もほとんどそのままお願いしている。地方祭などでおねりを見学したり、神社のおかぐらを見学したり、地域の行事への参加も大切にしている。 (外部評価) 毎年、利用者が、「大事な人に年賀状を書く」ことを支援されており、ひとりでは字を書くことが難しい方も、職員が手を添えてお手伝いをされている。利用者の中には、年末年始に、ご自宅に帰ってご家族とともに新年を迎えられた方もおられる。昔の教え子や友人が訪ねて来られて、居室で会話をしながら楽しい時間を過ごされる方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いのお部屋を訪問しあったり、和室で3、4人で一緒に洗濯物をたたんだり、他の利用者さんの食器を下膳したり、食事の進まない利用者さんに「食べんかな。食べんとおなかすくよ」などと優しく声掛けしたり等々、このような場面がたくさんできるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院のため退居されても、スタッフがお見舞いに行ったり、他の施設へ行かれた方はご家族から様子を知らせるお手紙をいただいたり、電話があったりと、関係を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) フェースシートでご本人、ご家族の思いや不安を知り、サービス計画書(1)で介護に対する意向をきちんとお聞きし、さらに、ご本人をしっかり観察することでより深く思いや願いをスタッフ全員が知り、カンファレンスで話し合い、以降に添ったプランを作成している。 (外部評価) 事業所では、前回の外部評価を受け、「利用者の表情やしぐさ、行動、言葉の中から思いをくみ取るため、これまで以上にしっかり観察すること」に取り組まれた。	利用者が、意思表示することが難しい状態になられても、最期まで、「あなたらしく 私らしく」暮らし続けられるように、早い段階からいろいろな場面を捉えて、暮らし方や終末期のあり方等の希望やこだわりについても情報収集に取り組み、さらなる利用者本位のケアを目指していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 居宅、デイサービス、小規模多機能などから提供された基本情報や、ご本人、ご家族から伺った情報により作成したフェースシートにより把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人に全員日課表を作成している。活動表(毎日の記録)により、バイタル、食事、服薬、排泄、レクリエーション、精神状態等々生活のすべてが記入できる表にて把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとに介護記録をもとにモニタリングを取り、カンファレンスをしている。(カンファレンスに参加されているご家族もある) 管理者、看護師、ユニットのスタッフ全員が意見を出し合い、ケアプランの見直しをしている。それぞれの利用者さんに「一人に一つできること」をプランに入れ、満足や張りのある生活につなげている。	
			(外部評価) 事業所では、市からのアドバイスもあって、「一人にひとつ毎日続けてできること」を介護計画に採り入れ支援をすすめておられる。又、「洗濯物を干すこと」や「たたむこと」等、すべての利用者の役割を一覧にして居間の壁に貼っておられた。計画は、基本的に3ヶ月毎に見直しをされている。モニタリングは、利用者個々の担当職員が日々の介護記録から、「医療状況」「身体状況」「精神状況」「家族及び他者と交流」「具体的会議状況」に分けて抜粋し、それに基づきユニットの全職員で行っておられる。今年1月より、日々の介護記録の用紙を一日1枚にまとめる様式に改めておられ、職員が見やすくなったようだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録の用紙にそれぞれ短期目標を入れており、目標に添った記録を取っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望がある利用者さんには(その時の状態により)ご家族に電話をしてご本人と話してもらったり、突然の外出や外泊にも対応。ご家族同行の受診、ご家族と共に食事を摂ったり、その時々で柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) お正月は初詣、3月はお花見、10月はコスモス見学、小学校の運動会に参加、三世代ふれあい運動会、地方祭のおねり見学、春祭り、夏祭り、おかぐら見学、芸能の集い、文化祭へ作品を出展、ボランティアさんや保育園児、小・中学生の訪問と、みなさんで支援してくださっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医はご本人、ご家族で話し合っている。受診も希望にてご家族同行も行っている。医療連携の充実によりすべてに対応し適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々に以前から診てもらっている病院に続けて診てもらえるよう支援されている。定期受診は、基本的に看護師資格を有する職員が同行されており、ご家族の希望によっては、付き添っていただくこともある。受診結果によっては、ご家族に電話で報告し、異常がなければ来訪時に日頃の様子と併せて報告されている。利用者の状況によっては、個々のかかりつけ医にも往診していただけるよう事業所からお願いされている。事業所では、「口腔リハビリ」に力を入れておられ、月に一度、歯科医師と歯科衛生士が来て、指導してくださっている。状態によっては、皮膚科の往診も受けられるようになっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日夜勤者より看護師、日勤者へ申し送りをする。それにより、指示・助言を受け、日勤者は交代する。状態に異常が起った場合は看護師に報告し、経過も伝える。臨時薬の確認、日々の状態観察もしっかり伝える。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>当施設は医療連携がある。病院の医師や連携室ともつながっており、入院、退院時の対応、事故への対応、突発的な受診の対応、ご家族との連携は深く関わっている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化や終末期に向けた方針をご家族とサービス担当者会議を開催して決定し、ケアプランを作成し、スタッフ全員に周知し、ご家族の意向や医師の指示に添ったプランであることを理解しケアしていく。ターミナルケアの勉強会は何度も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族より看取りの希望があれば、事業所では、利用者個々のかかりつけ医の協力のもと、ご家族とともに最期まで「その人らしい暮らし」を支援していくこととされている。現在、「数日でもいいから人の声、知り合いの声を聞きながら最期を迎えてほしい。」というご家族の希望から、一時入院していたが、退院して来られて終末期を事業所で過ごしている方がいる。居室には、ご本人がお好きな蘭の鉢植えをご家族が飾っておられた。又、ご家族が持って来られたご本人がお好きなクラシックのCDを流しておられた。職員は、度々訪室して声をかけておられ、ご本人は言葉で返答することは難しいようであるが、目を開けて応えてくださるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時、急変時、緊急時、救急車を呼ぶときなど、マニュアルがあり、よく見えるところに掲示している。消防署の研修に参加し、応急手当、初期対応の訓練、AEDの使い方などを受けた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防災訓練を行っている。1回は消防署、地域の方々も参加されての訓練、9月には、八幡浜市全体の、地震による津波時の訓練があり参加し、高台にある公民館まで避難する訓練をした。	管理者は、火災等いざという時は、地域の方が「自発的に来てくれるなら別だけど、消防署にお願いするしかない。」と考えておられる。いざという時の利用者、職員の安全・安心に向けて、具体的な訓練を重ねられ、事業所が地域にできること、又、事業所に協力してほしいこと等を話し合いながら、地域の方達と協力し合えるような取り組み等もすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 消防署の協力のもと年2回、避難訓練を実施されており、事業所独自でも2ヶ月毎に避難訓練を行っておられる。昨春秋、消防署の協力のもと、日中の火災を想定して避難訓練を行った際、区長や数名の地域の方に見学をしていただいた。夜間、火災が発生した場合には、近所に住む職員が駆けつけるようになってきている。昨年9月、地震から津波が発生したことを想定した避難訓練を八幡浜市全体で実施された際には、歩行できる利用者と車いすで移動できる利用者は職員とともに参加し、高台にある公民館まで避難された。事業所では、いざという時のために、食料や水、オムツ、タオル、懐中電灯等を準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンス、勉強会などで時間を取り、理念、接遇の事を学んでいる。利用者さんに接するときの表情、何気ない振る舞い、声のトーン等々に気を付けたり、声掛けをするよう心掛けている。一人一人に合った声掛けをしている。	
			(外部評価) 管理者は、「介護は接遇」であると考えておられる。「してあげる」「上から目線にならない」「人と人との付き合いをする」等、常に同じことを繰り返して職員に話されている。職員の利用者への声かけ等で気になった時には、その場で注意し、利用者の立場から考えられるよう話しておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者さんをしっかり知り、寄り添い、思いや意向や希望を把握し、一人一人の利用者さんと関わっていく。今日着る服を選んでもらう、おかずを選んでもらう、自分の食べるお弁当を選ぶ等々、満足感を感じてもらえるよう支援をしていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 介護記録をきちんと取り、その人をしっかり知ること、アセスメント、モニタリングをしっかり取ることで、その人にぴったり合う、意向や思いのつまった、満足できるケアプラン、日課表となり、それに添って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) とてもおしゃれだった利用者さんが車イスになられたが、更衣時には2、3着の洋服の中から着たい服を選んでもらうようになっている。職員が選んで着てもらったときも、色合わせなど気を配っている。散髪は美容師の免許のあるスタッフが定期的に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お正月、お祭り、誕生会、お月見等々、行事やイベントに合わせた献立になっている。お花見に行ったり、園庭で食べたり、楽しい時間になるよう工夫している。準備や食器洗い、食器拭きなどスタッフと一緒にやっている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が法人内事業所全体で同じ献立を立て、ユニット毎に調理をされている。管理者の「新鮮な旬の魚を食べていただきたい。」という思いから、週2回程度、昼食に刺身をお出ししている。現在、刺身が苦手な方はおられず、みな喜ばれるようだ。食材は、まとめて大量に仕入れておられ、時々夕食に、「フリーメニュー」の日を設け、食材を見ながら利用者と献立を考えて食事作りされている。調査訪問時の昼食は、お寿司で、利用者は野菜を切ったり、盛り付けや配膳等を職員と一緒にやっておられた。食後は、下膳する利用者の様子も見られた。事業所は、「最後まで口から食べる」ことに力を入れて取り組んでおられる。たとえば、入居時、ミキサー食だった方は、まずは、お粥が食べられるよう支援して、ご本人から、「みんなと一緒に物が食べたい」等の言葉が聞かれた際をきっかけにして、調理方法を工夫して、さらに支援を重ねられている。調査訪問時の昼食は、みなと同じお寿司を食べておられ、現在は、食事は普通食で水分のみトロミを付け支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 盛り付け、形態など、利用者さんに合わせて提供している。(カレーや丼は混ぜないで別々にするとか、おかゆ、キザミ、本人の食べやすい大きさ、みじん切りなど) 食事量のチェック、代替を考えるなど、体調や状態に合わせる。利用者さん全員、水分量のチェックも行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 2名の利用者さんは医師の指示により口腔指導(口腔マッサージ、口腔ケア)を受けている。その他の利用者さんも毎回歯磨きの声掛けまたは介助、義歯洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握して、スタッフ全員で同じ対応をしている。夜間は尿取りパッドを使用するが、日中はしない。オムツ使用だが、ポータブルトイレにも座る。日中はトイレ、夜間はポータブルトイレ。尿漏れが少しあるが、時間ごとの誘導にて布パンツで対応。排泄感覚を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレの声かけや誘導を行い、現在、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄をされている。又、昼間は布パンツで過ごされる方もおられる。入居後間もない方で、紙オムツを使用され、尿道カテーテルを留置している方がおられる。入居後、排便はトイレでできるよう支援され、今後は、紙パンツに移行して、「排尿訓練」を行うことで、自然に排尿できるよう支援していきたいと考えておられた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 独自の排便チェック表を使用している。夜勤者が排便をチェックし、明けに必ず申し送る。(マグミットの調整、下剤の使用などの確認) 氷水や冷たい牛乳を飲んだり、水分摂取を促すなどの工夫をしている。入浴をしたり、散歩したり、様々な工夫をして対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 独自の入浴チェック表を作っている。夜間の睡眠の状態、バイタルチェックをしての入浴、入浴拒否のある時は、きちんとわかる人には入浴の理由を説明し、納得して入ってもらっている。着脱、洗髪、洗身できる範囲でやってもらっている。入浴中は、おしゃべりが弾む。1対1でゆっくり接する時間をもっている。歌なども歌ったりする。</p> <p>(外部評価) 基本的には、午後からが入浴時間となっており、利用者個々に、週2回入浴できるよう支援されている。入浴を好まれない方等は、入浴回数が少なくなることもあるようだ。入浴しない場合は、清拭したり更衣できるよう支援されている。終末期を過ごされている方は、毎日清拭して気持ちよく過ごせるように支援されている。</p>	利用者一人ひとりが気持ちよく、くつろいだ気分で入浴できるよう支援に工夫できることはないか話し合われてみてはどうか。利用者一人ひとりについて入浴の習慣や好み等を探って情報を集めて、支援の手掛かりにされてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間眠れない日が多い利用者さんは、ケアプランに導入し対応している。就寝時間は利用者さん一人一人に合わせている。パッド交換、トイレ誘導は、その方に添って行い、睡眠を妨げないように心がけている。眠れない方には声掛けをしたり、水分補給をしたりして、安心して休んでいただけるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ケアカンファレンス時に看護師より、利用者が今服用している薬の説明、臨時薬の説明など、毎回行っている。服薬介助した職員は介護記録に明記し、責任を持つようにしている。介護記録には、傷病名、定期薬が書かれている。薬局からもらった「お薬情報」が各ユニットにあり、目を通して	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者さんに合わせて、得意なこと、好きなことをケアプランに導入している。食材切り、盛り付け、洗濯物干し(たたみ)、お花を生ける等々、お願いして、日々の生活に張りや自信を持ってもらっている。季節の行事(切り干し大根、つるし柿、しめ飾り作りなど)、畑の仕事、針を使ったり、座布団を作ったり、昔懐かしい作業も支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スタッフ同行にてなじみの理髪店に行ったり、銀行に行ったり、家族さんと共に外出したり、外泊したりの支援をしている。お正月には近くの神社へ初詣に、おかげ見学、輪抜け、地元の夏祭りには出店に出かけ、秋祭りにはおねり見学等々、地元の方が常に声をかけて下さっている。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に近くの神社、地域の公民館や学校等での行事に年間を通して参加されている。又、交流のある他事業所の行事に参加して、利用者の方達と一緒に楽しい時間を過ごされることもある。又、松山方面の事業所の夏祭りにも参加して交流をされている。桜やツツジ、コスモス等、季節の花を見に出かけることもある。目の不自由な利用者の方も一緒に外出して、風や匂い等で季節を感じてもらえるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は2名の方がお小遣い程度のお金を持たれている。1名の方は1日に何度もテーブルやベッドの上にお金を出したり、財布に入れたりされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を、ご家族の希望で持っておられる方が1名いる。(こちらから使用することは全くない)利用者さんの希望でご家族に電話をすることもある。年賀状は毎年家族に出している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングにはソファがあり、思い思いにくつろがれている。和室はちょうど良い高さで腰かけて、仲良しの利用者さんがにこにこしながら楽しそうに話されている。季節ごとの花は利用者さんが園庭から摘んできたり、ご家族にいただいたり、職員が持って来たりしている。</p> <p>(外部評価) 玄関には、職員が生けた南天や松等に水引をあしらったお正月の盛り花が飾られてあった。居間は、窓から光が入り明るく、調査訪問時には、利用者は、ソファでくつろがれたり、食卓の机でウエス作りをしながら会話を楽しまれていた。居間の一角に一段高くなっている畳スペースがあり、利用者が洗濯物をたたんだり、来客時には正座のできる方が一緒に食事をされることもあるようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室にはなじみのダンスやテーブルや椅子などが置かれている。気に入っている写真立て、犬の置物なども飾られている。仲良しの利用者さんどうしでお部屋を行き来されている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室の壁には家族さんからの手紙やハガキを貼ったり、テーブルには写真立てがあったり、家で使っていたカレンダーがあったりする。衣類、寝具は季節ごとに家族さんが来て整理される方もある。</p> <p>(外部評価) 初詣で買って来られた御札を居室の入り口に貼っている方や、居室の壁に書初めの作品やご家族の写真、誕生日カード、ご家族の年賀状等も飾っておられた。机やテーブル、ソファ等を持ち込まれている方もおられた。ベッドを持ち込まれている方もおられるが、事業所でレンタルしているベッドを使用されている方が多いようだ。居室は、フローリングにベッド、畳にベッド、畳に布団と、利用者のこれまでの生活や身体状態に合わせてしつらえておられる。布団をご自分で上げ下げされる方もある。終末期を過ごしておられる方は、ベッドからの離床が難しいため、窓を開けて外の風を感じられるよう支援されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ユニット、浴室、トイレなど、全てに手摺りがついている。居室は一人一人のADLの状態や個性に合わせて、布団で休んだり、ベッドだったり、立ち上がりのためベッドに手摺りを付けたり、3ベッドだったり、できる範囲で自立が促せるよう支援している。</p>	